

聖マリアンナ医科大学病院 救命救急センターに搬送された  
患者さん・御家族の皆さんへ  
「救急搬送におけるショック輸液の有効性」について

## ショック輸液とは？

「ショック輸液」というのは、救急医療で使われる処置の一つで、**血圧が危険なほど下がったショック状態にある人に対して体内の血液量を回復させるために点滴で液体を入れることを指します。**

- **ショック状態とは？**

事故や病気で血液が足りなくなったり、血圧が極端に下がったりして、体の臓器に十分な血液が届かない危険な状態です。命に関わることがあります。

- **なぜ液体を入れるの？**

血液が足りないと血圧が下がり、心臓や脳に酸素が届きません。そこで、点滴で「輸液」(水分や塩分を含む液体)を入れて、血管の中の量を増やし、血圧を回復させます。

- **どんな液体？**

主に「生理食塩水」や「乳酸リンゲル液」など、体に近い成分の液体を使います。血液そのものではなく、血液の代わりに一時的に循環を助けるものです。

- **目的は？**

救命士が現場でできる限り早く血圧を安定させ、病院に搬送するまで命をつなぐことです。

## (1) 研究の目的

救急救命士による救急車内でのショック輸液は、拡大行為の一つとして認められていますが、その有効性についての科学的な検証は十分ではありません。

本研究では、現場での判断の妥当性や今後の運用方針の検討に役立てることを目的として、病院前診療におけるショック輸液の実施が、患者さんの予後やバイタルサインの安定化に与える影響について検証を行います。

本研究は聖マリアンナ医科大学生命倫理委員会(臨床試験部会)にて審議され学長の許可を得て実施しております。

## (2) 研究の方法

研究実施期間: 実施許可日から 2026 年 9 月 30 日

対象は、2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日に当院救命救急センターに搬送された患者さんで、病院前診療においてショック輸液を実施された症例になります。研究で使用する下記のデータは、通常の診療によって得られた診療録のデータです。本研究は観察研究であり、患者さんにいかなる利益・不利益が生じることはありません。各病院の電子カルテ・ICU 入院患者台帳から必要な情報を抽出し、個人情報削除してから統計解析を実施するため、患者さんに対して危険性はありません。

診療録から抽出するデータ：

性別、年齢、バイタルサイン(収縮期血圧、脈拍、呼吸数、意識レベル)、指令課情報、現場観察、活動状況、経過記録、特定行為経過記録、来院後経過、予後

### (3)個人情報の保護について

この研究では登録の時に、新たに研究用の個別の番号を付し、個人が特定できないように取扱います。個人情報と識別コードの照合表を作成し、救命救急センターの鍵付きの引き出しで厳重に保管します。

### (4)研究結果の公表について

研究結果は、医学研究雑誌や学会等で発表される予定です。

その場合も、個人を特定できる情報は一切含まれませんのでご安心ください。

※ この研究の対象となられる方で、ご自分あるいはご家族の情報を登録したくない場合は 2026 年 1 月 31 日までに下記連絡先までご連絡下さい。 研究への参加を希望されない患者さんの情報は研究データとして使用することはありません。なお、申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

#### 連絡先

聖マリアンナ医科大学病院 救急医学

住 所：〒216-8511 川崎市宮前区菅生 2-16-1

電 話：044-977-8111 (代)

研究責任者： 森澤 健一郎